

わ げん あい ご

# 和顔愛語

これは『仏説無量寿経』に出てくる言葉で、やわらかなる顔といつくしみのある言葉という意味です。やわらかなる顔もいくつしみのある言葉も、相手があつて生きることです。それで『仏説無量寿経』は、この言葉につづいて「意を先にして承問す」とあり、相手の心に寄り添い、そこにある問題をていねいにくみ取ることが、「和顔愛語」となると語られます。

私たちも、そんなふうになれたらと思いますが、私たちは環境を生きるものですから、そんなわけにはいかないのでしょう。それで思い出すことがあります。

東日本大震災の後に関東で開かれた法座に伺った折にこんな感話をお聞きしました。震災の後、水の不足や食料の不足が報じられ、コンビニで水やパン・カップラーメンの食糧を買い込もうとレジの前に何人も並んでいたそうです。その中に小学校一年生くらいの男の子がいたのです。その子はおやつを買いに来ていたようで、お菓子を一つ持つて並んでいたのですが、自分の番が来ると、レジの横に置かれた被災地救援の募金箱を見て、少し考えた様子でしたが、もらって来たお小遣いを募金箱に入れ、お菓子を元の棚に返してお店を出ていったそうです。その姿を見て、並んでいた大人がみなハッとした顔になったそうです。その方は急に恥ずかしくなったとおっしゃいました。

そうです。私たちは起こって来た出来事、置かれた環境によって、いざとなったら「まず私」を優先します。その時の私たちの心の顔は、夜叉か鬼の形相になっているかもしれません。言葉は刺々しく荒いものにもなるでしょう。

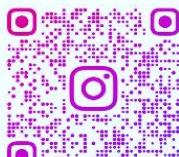
私たちの心の根っこには「まず私」「私優先」というものがあります。それが現代では「ファースト」と呼ばれ「自分ファースト」「我が國ファースト」が世界に渦まいています。それを深く悲しむ仏様が、和顔愛語して私たちに寄り添い、私たちの問題を知らせておられます。

岐阜高山教区不遠寺住職 よつじ あきら  
四衢 亮

大谷祖廟のInstagramをご存知ですか？

フォロー、拡散、また「#大谷祖廟花文字 #大谷祖廟」をつけて投稿してください！

お問い合わせ：大谷祖廟事務所 京都市東山区円山町477 TEL 075-561-0777



@OTANISOBYO